

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

(別紙4)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年11月15日

【評価実施概要】

事業所番号	873700512		
法人名	社会福祉法人 聖隷会		
事業所名	グループホーム 玉造の里		
所在地	行方市芹沢1652-10 (電話) 0299-55-2831		
評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	茨城県水戸市千波町1918茨城県総合福祉会館2階		
訪問調査日	平成19年5月16日	評価確定日	平成19年11月26日

【情報提供票より】 (平成19年4月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年3月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤14人, 非常勤1人, 常勤換算7.4人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨	造り
	2階建て	1~2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円
敷金	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	無	有りの場合償却の有無	—
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,100 円	

(4) 利用者の概要 (4月1日現在)

利用者人数	18名	男性	5名	女性	13名	
要介護1	6	要介護2	5			
要介護3	3	要介護4	2			
要介護5	2	要支援2	0			
年齢	平均	78歳	最低	62歳	最高	98歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人聖和会つくば病院・パレスメディケア病院
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

設置法人は、医療機関や福祉施設を運営しており、管理栄養士によるカロリーの計算や医療機関での適切な処置が受けられるなど、法人内で連携を図り、利用者の状態や希望に応じた支援が受けられる体制となっている。
 このような環境のもと、ホームでは車イスや寝たきりの方を受け入れており、終末期を視野に入れた支援体制が整っている。
 隣接する保育園や子育て支援センターと交流を持ち、園児達とふれあう機会を設けることにより、利用者の笑顔を引き出すとともに、自由のある暮らしと思いを尊重したケアを実践している。
 毎月のホーム便り「聖ポレポレ」での報告や馴染みの職員の関りや医療機関のバックアップが利用者・家族の安心に繋がっている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>運営理念の明示・玄関周りや共有空間における家庭的な雰囲気づくりなど、ホームの課題を真摯に受け止め、全職員で話し合いを行い、課題の改善に取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者・職員は評価の意義を理解するとともに、職員全員で意見を出し合い、自己評価に取り組んでいる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議の構成員として行政や民生員・隣接する保育園の園長・家族等を選出しているが、開催するまでには至っていないので、会議の開催に向けた働きかけや会議後の意見等をホームの運営に活かすことを期待する。</p> <p>地域包括支援センターを定期的に訪問し、情報交換やサービスの向上に向けた話し合いを行っている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>苦情の受付窓口や担当者、第三者委員を設置し、運営規定や重要事項説明書に明示するとともに、受付方法や解決方法の説明書を作成し、家族等に配布している。</p> <p>また、家族との面接時に口頭で繰り返し説明し、意見や要望を引き出すよう、働きかけている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域のお祭りに参加したり、隣接する子育て支援センター・保育園の父兄とも交流している。</p> <p>散歩時に地域の住民との挨拶を通して交流している。</p>

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム独自の理念を作り、玄関に見やすく分かりやすく掲示している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝礼時に理念を復唱し、職員間で共有するとともに、日常利用者と接する中で人権の尊重や個別のケア等に取り組んでいる。 また、カンファレンスにおいて、理念を踏まえたサービスの見直しや話し合いを行っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域のお祭りに参加したり、隣接の子育て支援センター・保育園の父兄とも交流している。 散歩時に地域の住民との挨拶を通して交流している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者・職員は評価の意義を理解するとともに、職員全員で意見を出し合い、自己評価に取り組んでいる。 運営理念の明示・玄関周りや共有空間における家庭的な雰囲気作りなど、ホームの課題を真摯に受け止め、全職員で話し合いを行い、課題の改善に取り組んでいる。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の構成員として行政や民生員・隣接する保育園の園長・家族等を選出しているが、開催するまでには至っていない。	○	運営推進会議開催に向けた日程調整に取り組んでいるので、会議の開催に向けた働きかけや会議後の意見等をホームの運営に活かすことを期待する。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターを定期的に訪問し、情報交換やサービスの向上に向けた話し合いを行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族への報告は、面会時や電話で直接話をするとともに、金銭管理の書類やホーム便りを送付している。 ホーム便りは、月1回発行しており、行事予定や献立・写真・職員紹介等を掲載している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情の受付窓口や担当者、第三者委員を設置し、運営規定や重要事項説明書に明示するとともに、受付方法や解決方法の説明書を作成し、家族等に配布している。 また、家族との面接時に口頭で繰り返し説明し、意見や要望を引き出すよう、働きかけている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や離職を最小限にとどめ、馴染みの職員が継続的に対応できるよう、心掛けている。 職員が離職する時には、利用者や家族に説明・挨拶をしている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での職員研修を実施するとともに、外部研修に職員を派遣している。 研修受講後は、会議で研修内容を報告し、情報を共有している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	茨城県認知症高齢者グループホーム連絡協議会に加入し、研修会に参加するなど、他ホームとの連携を図っている。 また、近隣のグループホームとは利用者の入居紹介をするなどで、連絡を取り合っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用を希望する方には見学等で来所した時に、相談や説明を行ったり、必要に応じて職員が自宅を訪問している。 利用希望者がいたときは、希望者の資料に基づき職員間で会議を開き、ホームにあっていくかなどの検討している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者と暮らす中で、調理や生活習慣の違いを把握し、楽しみを見出せるよう、支援している。 職員は、利用者と会話するなかで、行事の由来や風習等を学んでいる。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりがより良いホーム生活を送るための希望や意向を把握する取り組みが十分では無い。	○	意思疎通が困難な場合でも日々の関わりの中で言動や表情などから把握に努め、本人の視点に立って生活を支える取り組みを期待する。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画の作成にあたり、日常から利用者の希望や意見を聴取するとともに、家族の意向を聞いている。 介護計画は、職員全員がカンファレンスで意見等を話し合い、家族や関係者にも意見を求め、作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画に実施期間を明示するとともに、期間終了後にモニタリングで評価を行い、見直ししている。 また、期間内でも利用者の状態に変化があった時は、随時の見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の税金や社会保険料等の支払をホームで代行できるよう、金銭出納管理サービスの代理権の承認を利用者や家族等と契約している。 また、利用者が医療機関に通院するときは、送迎するなど、通院支援を行っている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用時に本人や家族に、かかりつけ医や事業所の協力医とするかの意向を確認している。 いずれの機関を選択しても、通院介助を行ったり、訪問診療を依頼するなど、利用者にとって適切な診察が受けられるよう、支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者が重度化した場合や終末期の対応は、本人や家族の意向を踏まえ、医師等と連携をはかり、納得した終末期を送れるよう、取り組んでいる。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報に関する基本方針や個人情報の利用目的を定め、方針や目的に沿った情報の取扱を行っている。 誘導の声掛けは、利用者の誇りやプライバシーに配慮して、さりげない言葉掛けや対応をしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な生活の流れを決めているが、利用者一人ひとりの体調や気分配慮し、本人の気持ちを優先させた支援をしている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は利用者と職員と一緒に調理するとともに、配膳や後片付けをしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日や時間帯に係わらず、利用者の入りたい時間に入浴できるよう、支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの力量に合わせた役割づくり、場面づくりに取り組んでいる。 地域の行事に参加するときは、利用者と一緒に話し合いを行い、外出や楽しみ事を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の体調や気分、天気に配慮しながら、近隣への散歩や花見等に出かける機会を設けている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は利用者一人ひとりの外出傾向について、観察し把握しており、利用者の状態に応じた対応をしているので、日中は鍵を掛けない。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の消防署の協力を経て年2回程度、利用者とともに、避難訓練や消火器の使用方法に関する訓練を行っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ホームの献立は、設置法人の管理栄養士が作っており、栄養バランスに配慮している。利用者の食事量・水分摂取量を生活アセスメントシートに記入している。また、利用者の咀嚼・嚥下状態に応じて摂取しやすいよう、調理している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	設置している窓が大きく明るい雰囲気になっている。 居間の掃き出し窓からは、隣接した保育園で遊ぶ子ども達の姿が見える。 玄関も広々とし、正面には畑や林がみえる。 日差しはレースのカーテン調整している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真やテレビ・仏壇など、利用者の思い思いの物品を自由に持ち込み、安心した生活が送れるよう、配置している。		

※  は、重点項目。